

令和8年6月10日

学年： 第2学年

国語科単元名： 「お話を読み、すきなところをつたえよう」

授業者： 日高 侑子

本単元における目指す児童像

〈分科会が目指す児童像〉
自分の思いを言語化して、伝えることができる子

〈本単元における目指す児童像〉
音読によりお話の様子を具体的に思い浮かべ、単元の学習を通して、自分の好きな場面を見つけ、友達と伝え合うことができる子

研究主題に迫る手だて

1 見通しをもって学ぶ工夫

- (1)学習計画を常に掲示しておく
- (2)毎時間のめあての設定
- (3)3段階の自己評価

2 目的に応じた音読の工夫

- (1)めあてをもって読む
追い読み、まる読み、パーフェクト読み、一斉読み
- (2)叙述や挿絵に着目する
- (3)範読や友達の読みを参考にする

3 児童が学びを選択できる工夫

- (1)好きな場面を選択する
- (2)対話する相手を自分で選ぶ



単元名： お話を読み、すきなところをつたえよう

授業者： 2年1組担任 日高 侑子

協議会の視点

- 1 自分で対話する相手を選び多くの友だちとペアで交流することで、考えを広げることができたか。
- 2 「スーパーシーンを決めて友達と伝え合う」という単元のゴールは、読みを進めることに有効であったか。



指導の成果

- 1 ワークシートの活用
ペアで交流する際、感想を伝え合うというめあてを意識して活動できるよう、ワークシートを使用した。相手の話に共感性をもって聞く姿や自分の感想を伝えることを意識している姿が見られた。また、振り返りの際にワークシートを見返すことで、新たな物語の魅力に気付き、友だちの感想を認める発言につながった。
- 2 対話する相手を選びペアで交流する活動
自分で相手を選ぶことができるため、安心して交流することができていた。同じ場面を選んだ人同士で感想を伝え合う児童も見られ、自分の考えがよりレベルアップされていた。
- 3 学習の見通しをもって取り組むための手だて
学習計画を模造紙に書いて掲示した。また、授業の板書を毎回写真に撮り、掲示しておいたことは見通しをもって取り組むために有効だった。



指導の課題

感想を交流する活動は、学習指導要領の目標としては、中学年のレベルにある。難しい児童への手だてをどうするか。

改善案

- 感想を言いやすくするために視点を示しておくが良い。
- まずは同じシーンを選んだ児童同士で交流させる。そして、レベルアップとして、違うシーンを選んだ児童と交流すると良いのではないか。

指導講評

- 児童が楽しく学ぶためにはまず教師が楽しむ。発問やめあてを考える前に、教材を読み、どんな学習を児童とつくりたいかを考えて取り組むと良い。
- ラーニングピラミッド（学習方法による学習定着率の違いを表した図）によると学びの定着にはアウトプットが大切。自分の考えを発表してまとめ、振り返りを通して学びを深めることができる。
- 評価規準は、自分の考えを友達に聞いてもらうとなっている。発展的に感想の共有につなげていても良いのでは。
- 伝える活動の時は挿絵などを活用すると、感想の共有がよりしやすくなると思われる。
- 振り返りについては視点を掲示すると良い。本時は日頃の積み重ねがあるので、視点を与えなくても書くことができていた。